

夢を目指す皆さんへ贈るメッセージ



新谷 賢人

柔道整復師の国家試験は、筆記試験は一般問題6割、必修問題8割をクリアすれば全員が合格できる試験です。

私は、決して勉強が得意な方ではありませんでしたが、先生方のサポートや、同期の人たちと協力して勉強することで、合格することができました。

一人でも多くの方がこの資格や仕事に興味を持って、医療に携わっていただけることを願っています。



自身のスポーツとケガの治療の経験を通して、柔道整復師という資格・職業に出会った新谷さん。現在の職場では、高齢化がさらに進む中、高齢者のケガや転倒による骨折、脱臼、老化による関節痛などは、さらに増えて行く実感する毎日。柔道整復師は、医師以外で唯一、脱臼や骨折の治療ができる資格。これからますます重要な役割になっていくと、新谷さんは考えています。また、柔道整復師の治療は、手術や投薬を行わない**保存療法**。患者様の身体的な負担が少なく、症状によっては長期にわたって治療を行うことで、患者様の変化や回復を身近に感

てリハビリテーション計画を立案。患者様に合わせて、徒手療法、ストレッチ、運動による痛みの緩和など、元の正常な身体機能の状態に戻していくことを目標に、「運動療法」という形でリハビリを担当しています。また、柔道整復師として、骨折や脱臼の患者様の整復、ギプス固定も担当です。

しながら関わる存在です。「超高齢社会」の日本。日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる「健康寿命」を伸ばすため、柔道整復師の**担う役割は大きい**のでは、と考えています。



広島県北広島町豊平病院 勤務

14 新谷 賢人さん

■柔整学科 2015年卒業12期生

これからますます、 重要な役割になっていく。

超高齢社会の日本において、健康寿命を伸ばすために柔道整復師の担う役割は大きいと、毎日の仕事の中で実感。

小学生の頃から剣道を続けてきた新谷さんは、捻挫や打撲といったケガの際には、いつも接骨院で治療。その経験から、**自分も同じように、ケガをした人の治療をしたい**という思いが自然と湧いてきました。高校3年生になり進路を決める際、接骨院の先生に相談し、柔道整復師の存在を知ります。先生の勧めでIGLのオープンキャンパスに参加。明るく、勉強に励めそうな良い環境と感じ、入学を決めます。

入学したての頃は、知らない人ばかりで不安を感じますが、すぐに、みんなと打ち解けます。勉強は予想以上に難しく、「続けていくことができるだろうか」と、また不安な気持ちに。しかし、**教員の熱心なサポートと、同級の仲間との協力**によって、充実した学生生活を送ることができました。

在学中は接骨院でのアルバイトも有り、現場の治療を目の当たりにし、新谷さんはより一層、**患者様と、真摯に向き合って治療ができる柔道整復師になりたい**、と思うようになります。

卒業後は、医療法人齊和會・広島クリニックに就職。最高で最先端の西洋医学と、数千年培われた、東洋医学や手技療法などの代替医療をうまく融合させることを目標とするクリニックです。

現在、同法人が指定管理者となる広島県北広島町豊平病院へ異動、理学療法室に勤務します。ここでは、医師の指示のもとで理学療法士・柔道整復師・言語聴覚士等が連携をとっ